

○ 委員長報告

1 2月定例会本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和5年12月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、県産水産物の消費拡大及び販売促進についてであります。

このことについて一部の委員から、国内外への県産水産物の消費拡大や販売促進の取組状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、海外輸出では、北米内陸部やEUへの販路拡大に重点的に取り組んでおり、新たな販路を早急に獲得するため、補正予算案を追加計上し、北米のデンバーにおいては、これまでに培ったバイヤーやレストラン等とのつながりを着実な成果に結びつけるため、現地フェアや商談会を開催する。EUでは、フランスを足掛かりに欧州全域へ販路を拡大するため、スペインで開催される欧州最大の水産専門見本市に出展予定である。

また、国内では、国内トップシェフとタイアップした県外の大規模小売店との連携プロモーションを行うほか、県内でも、小売店や飲食店と連携したキャンペーンを実施して、県内外での県産水産物の消費拡大につなげていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、農業への企業の参入状況についてであります。

このことについて一部の委員から、本県農業への企業参入の現状と、農業振興への波及効果はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内の農業への企業参入は、令和元年度に62法人であったものが、令和4年1月時点では81法人となり、増加傾向にある。また、業種別の参入企業は、農業・畜産業が28法人、廃棄物処理や観光等のサービス業が16法人である。

企業の農業参入は、一般の農業者と比較して経営規模が大きく、農地の有効活用や耕作放棄地の解消につながるほか、地域の雇用創出も期待できるため、県では、相談窓口を設置し、関係機関とも連携して、農業技術や農地貸借等のきめ細かな相談対応を行っており、その結果、参入に至ったケースもある。今後とも、農業への企業参入が地域の活性化に結びつくよう取組みを進めていき

たい旨の答弁がありました。

第3点は、かんきつの生産・販売状況についてであります。

このことについて一部の委員から、少雨の影響が懸念されるが、かんきつの生産・販売状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、生産状況は全体的に小玉傾向だが、温州みかんは表年傾向で着果量も多く、前年を上回る112%の生産量を見込んでおり、中晩柑の生産予想量は、対前年比で紅まどんなが102%、ポンカンが108%、イヨカンが98%となっている。

販売状況は、温州みかんは、糖度が高く高品質に仕上がり、京浜市場で全国平均より高値で取り引きされ、また、紅まどんなは、11月下旬までの累計で販売数量は前年よりも増、価格は前年並みと順調である。

少雨の影響については、11月の降雨により樹勢は回復傾向となっており、施肥等の徹底など来年産に向けた対策を進めるとともに、今後は、農業団体と連携して厳選出荷に取り組み、愛媛かんきつのブランド維持に努めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ 漁業用燃油・飼料高騰対策緊急支援事業
- ・ えひめの食応援事業
- ・ 捕獲獣流通円滑化促進事業
- ・ 防災・減災のための、ため池の整備
- ・ 酪農・畜産飼料価格高騰対策緊急支援事業

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。